



避難行動要支援者 編



藤沢市

目次

第1部 はじめに

| | |
|----------------------------|----|
| 第1章 本冊子作成にあたって | 01 |
| 第2章 要配慮者と避難行動要支援者 | 02 |
| 第3章 藤沢市避難行動要支援者避難支援プラン全体計画 | 03 |

第2部 避難行動要支援者の個別支援対策

第1章 高齢者

| | |
|------------------------------|----|
| 1 ひとり暮らしやねたきり高齢者・高齢世帯及びその支援者 | 04 |
|------------------------------|----|

第2章 障がい者

| | |
|-------------------------|----|
| 1 視覚障がいのある方及びその支援者 | 05 |
| 2 聴覚障がいのある方及びその支援者 | 06 |
| 3 音声・言語機能障がいのある方及びその支援者 | 07 |
| 4 肢体不自由のある方及びその支援者 | 08 |
| 5 内部障がいのある方及びその支援者 | 09 |
| 6 精神障がいのある方及びその支援者 | 10 |
| 7 知的障がいのある方及びその支援者 | 11 |
| 8 発達障がい（自閉症）のある方及びその支援者 | 12 |

第3章 要介護者

| | |
|---------------------------|----|
| 1 介護支援が無ければ生活が困難な方及びその支援者 | 14 |
|---------------------------|----|

第3部 要配慮者の支援

| | |
|-------------------|----|
| 1 要配慮者・ご家族・身近な方へ | 15 |
| 2 支援者のみなさん～地域の方へ～ | 16 |
| 3 妊婦・乳幼児及び家族のために | 17 |
| 4 外国人市民のために | 18 |

第4部 卷末付録

| | |
|----------------------|----|
| • 卷末付録1：防災カード | 19 |
| • 卷末付録2：コミュニケーションボード | 19 |
| • 福祉避難所一覧 | 21 |

第1部 はじめに

第1章 本冊子作成にあたって

藤沢市は、災害対策基本法に基づき、本市及び防災関係機関が実施する災害予防、災害応急対策、災害復旧復興などに関する対策を「藤沢市地域防災計画」として定めています。この計画に基づき、地震災害、風水害、都市災害等に関する様々な対策を総合的に実施しています。

その取組の一つとして、この小冊子やメールマガジンなどの防災・災害情報提供ツールを「ふじさわ防災ナビ」と位置付け、平常時の防災情報から災害発生時の災害情報まで、市民の皆さんに多様な情報を提供することとしています。

1. 小冊子

- ふじさわ防災ナビ～自主防災活動編～
- ふじさわ防災ナビ～防災訓練編～
- ふじさわ防災ナビ～みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編～
- ふじさわ防災ナビ～みんなの防災・知識と備え編～
- ふじさわ防災ナビ～避難行動要支援者編～(本冊子)

2. リーフレット

- ふじさわ防災ナビ～みんなの防災・これだけは知っておこう編～
- ふじさわ防災ナビ～妊婦さんと乳幼児がいるご家庭編～
- ふじさわ防災ナビ～避難行動要支援者編～(高齢者向けリーフレット)

3. メール

4. インターネット

5. 電子地図 (Web GIS)

6. DVD (動画) 災害がおきたときみんなで支えあうために

7. その他

- マイME・BYOカルテ(神奈川県作成)

小冊子等は、藤沢市ホームページの「ふじさわ防災ナビ」からもご確認いただけます。

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>

この「ふじさわ防災ナビ～避難行動要支援者編～」は、避難の際に支援を必要とする方と支援する方が、あらかじめ支援の在り方を考えておくことで、いざという時に、あわてず、素早い行動に移ることができるように作成しました。



第2章 要配慮者と避難行動要支援者

災害発生時において、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、自らを守るために安全な場所に避難するなどの一連の行動をとることが困難であったり、自宅を失うなどの理由により避難施設で生活する場合に、他者の配慮を必要とする方々を要配慮者といいます。

また、「藤沢市避難行動要支援者避難支援プラン全体計画」では、これらの要配慮者のうち、高齢者や障がい者など、災害が発生した場合にひとりで避難することが困難であり、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために、特に支援を要する方を、「避難行動要支援者」と位置付け、地域の中で避難支援体制づくりを進めることとしています。

要配慮者

避難行動要支援者

○高齢者

- ひとり暮らし高齢者（75歳以上）
- ねたきり高齢者（65歳以上）
- 高齢者のみ世帯（75歳以上）

○障がい者

- 身体障がい（視覚6級以上、聴覚6級以上、上肢1～2級、下肢1～3級、体幹1～3級、腎機能障がい1級）
- 知的障がい（A1、A2、B1、B2）
- 精神障がい（1～2級）のうち、単身世帯の方
- 精神障がい（3級）のうち、単身世帯で市の生活支援を受けている方

○要介護者

- 介護保険要介護3以上

○自立支援医療受給者のうち、単身世帯で市の生活支援を受けている方

○難病患者のうち、市の生活支援を受けている方

○妊娠婦・乳幼児 ○未就学児童 ○児童生徒 ○外国人

(その他要配慮者)

障がいがない方でも、災害発生時においては要配慮者となる場合があります。

負傷等により自力歩行や素早い避難行動が困難な場合には、簡易担架等の補助器具や家族等による支援が必要となります。

第3章 藤沢市避難行動要支援者避難支援プラン全体計画

2011年(平成23年)の東日本大震災では、犠牲者の過半数を65歳以上の高齢者が占め、また、障がい者の犠牲者の割合についても、健常者と比較して2倍程度に上ったと推計されています。こうした被災傾向は、過去の大規模な震災・風水害などにおいても共通してみられるものであり、災害発生時に自力で迅速な避難行動をとることが困難な方への避難支援の強化が急務になっています。

こうした状況を受け、国は、2013年(平成25年)6月に災害対策基本法を改正し、同年8月には「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」を示しました。

藤沢市では、法改正を受けた取組として、避難行動要支援者対策を「藤沢市地域防災計画」に位置付け、「藤沢市避難行動要支援者避難支援プラン全体計画」として、従来の災害時要援護者対策からの見直しを行いました。

「藤沢市避難行動要支援者避難支援プラン全体計画」では、避難行動要支援者名簿を活用した地域での避難支援体制づくりのために、次の項目などに関する考え方を示しています。

- ①避難行動要支援者名簿に掲載する者の範囲
- ②名簿作成に必要な個人情報及びその入手・更新方法
- ③避難行動要支援者の避難支援等に関する事項
- ④避難支援等関係者の範囲
- ⑤避難支援等関係者の安全確保
- ⑥個人情報の保護に関する事項

地域の防災力を高めていくためにも、住民自らが日頃から災害に対する意識を高めるとともに、備えをする「自助」や、自治会・町内会、近隣住民との助け合い・支え合いによる「共助」を進め、民生委員・児童委員や行政機関などと連携して避難支援体制づくりに取り組む必要があります。

まずはこの小冊子をお読みいただき、避難支援を必要とする方は、自主防災組織（または自治会や町内会など）や民生委員・児童委員に相談してみましょう。



第2部 避難行動要支援者の個別支援対策

第1章 高齢者

1 ひとり暮らしやねたきり高齢者・高齢世帯及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と、災害が起きたらどうするか話し合う機会を設けましょう。（きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。）

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○搬送支援に備えて、シーツ、毛布、簡易担架、リヤカーなどの搬送用具を用意しておきましょう。

災害が起きた時

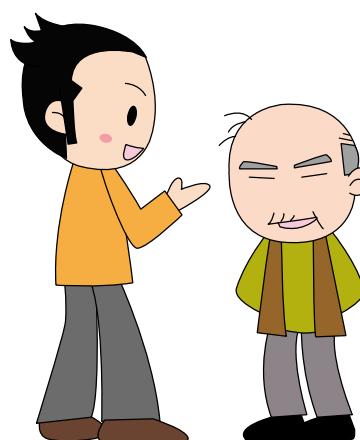
○支援者は、避難行動要支援者が何を求めているか、しっかり話を聞きましょう。声をかけて、不安を取り除き、どのような支援が必要か尋ねましょう。

○避難するときに、足腰が弱って自力で動けない場合もあります。支援者は持ち出し品などを持つてあげるようにしましょう。

○認知症などが原因で、危険な状況や避難の必要が分からぬ場合があります。支援者は簡単な言葉でゆっくりと声かけをしましょう。また、パニックになってしまふと大声を出すこともありますので、安心するように接しましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。



第2章 障がい者

1 視覚障がいのある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と、災害が起きたらどうするか話し合う機会を設けましょう。（きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。）

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○白杖、点字器、携帯電話などを身近なところに準備しておきましょう。

災害が起きた時

○連絡や通知は音声によって行いましょう。

○声をかけ、危険があるかないかを伝え、不安を和らげましょう。

○慣れていない場所では、一人で移動することは困難です。移動介助を申し出ましょう。

○誘導するときは、ひじを持ってもらい、支援者が半歩程度先に立ち、目の前の状況を具体的に伝えましょう。障害物などがある場合は、どう避けたらよいかも具体的に知らせましょう。



○盲導犬を伴っている人に対しては、方向を説明し、直接盲導犬を引いたりさわったりしないようにして誘導しましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。

2 聴覚障がいのある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1 週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と、災害が起きたらどうするか話し合う機会を設けましょう。（きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。）

○特に、津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。エリアメール・緊急速報メール、メールマガジン「ふじさわ防災ナビ～防災気象情報」、インターネットの活用や、近隣の方による伝達支援を受ける必要があります。

○補聴器用の電池、筆談用のメモ用紙、筆記用具、笛、ブザーなどを携帯しましょう。

○ひとり暮らしの人は、近隣の方から地震の情報や避難の方法などを教えてもらえるよう、日頃からの近所付き合いを大切にしましょう。

災害が起きた時

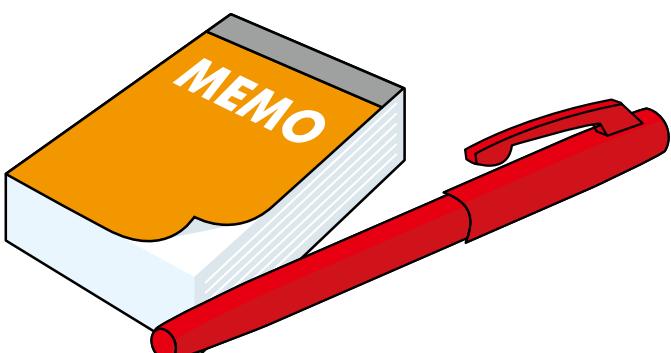
○手話、筆談、身振り、掲示板などの方法で、情報を伝えるようにしましょう。

○支援者は、手話でコミュニケーションをとる人、筆談の人など、相手に合わせたコミュニケーションを図りましょう。

○聴覚障がいのある方が情報発信したい時に、FAX などが使えない場合には、内容を紙に書いてもらい、代行して声で伝えるようにしましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。



3 音声・言語機能障がいのある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と、災害が起きたらどうするか話し合う機会を設けましょう。（きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。）

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○筆談用のメモ用紙、筆記用具、笛、ブザーなどを携帯しましょう。

○ひとり暮らしの人は、近隣の方から地震の情報や避難の方法などを教えてもらえるよう、日頃からの近所付き合いを大切にしましょう。

災害が起きた時

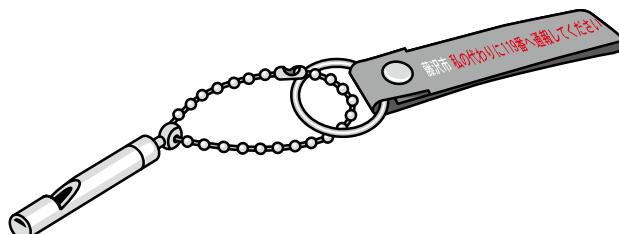
○支援者は避難行動要支援者から聞き取りを行い、必要な情報提供や支援します。

聞き取りが困難なときは、相手に断って筆談やメモを使用するようにします。

○音声・言語機能障がいのある方が情報発信したい時に、FAXなどが使えない場合には、内容を紙に書いてもらい、代行して声で伝えるようにしましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。



4 肢体不自由のある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
(布団で寝ている場合に車いす等が揺れによって倒れないようにする対策や、他の家財の落下等で車いす等を破損させない対策も必要)
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と、災害が起きたらどうするか話し合う機会を設けましょう。(きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。)

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

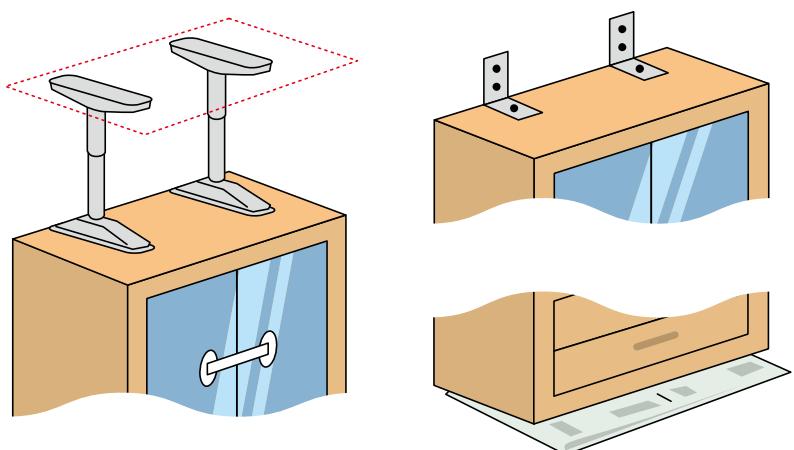
○搬送支援に備えて、シーツ、毛布、簡易担架、リヤカーなどの搬送用具を用意しておきましょう。

災害が起きた時

○支援者は、避難行動要支援者が何を求めているか、しっかり話を聞きましょう。声をかけて、不安を取り除き、どのような支援が必要か尋ねましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。



5 内部障がいのある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 常備薬、飲み水、食べ物（特殊な治療食）など必要とするもの1週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と、災害が起きたらどうするか話し合う機会を設けましょう。（きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。）

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○常備薬や特殊な治療食の蓄えなどは、主治医に相談して準備しておきましょう。（その名称等もメモしておきましょう。）

○在宅療養中で災害時の非常用電源が必要な人は、非常用外部バッテリーや自家発電機を準備し、かかりつけの医療機関などと災害時の対応を確認しておきましょう

○防災カード（巻末付録1）などを利用して、緊急連絡先やかかりつけの医療機関や服用している薬などを記入したものを本人と家族が持つようにしましょう。また、日頃、使用している装具の説明書を準備しておきましょう。

災害が起きた時

○支援者は、避難行動要支援者から依頼があれば、医療機関に連絡し、以後の対処について指示を受けましょう。

○支援者は、避難行動要支援者が何を求めているか、しっかり話を聞きましょう。声をかけて、不安を取り除き、どのような支援が必要かたずねましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。

6 精神障がいのある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○医療的なケアが受けられなくなった場合の対処方法について、主治医から聞いておき、適切な行動がとれるようにしておきましょう。

○防災カード（巻末付録1）などを利用して、緊急連絡先やかかりつけの医療機関や服用している薬などを記入したものを本人と家族が持つようにしましょう。

○障がいのある方の家族と近隣の方は、プライバシーに配慮しながら、災害時にはどのような支援が必要であるかを話し合っておきましょう。

災害が起きた時

○周囲の人は声をかけて落ち着かせ、安全な所へ誘導しましょう。

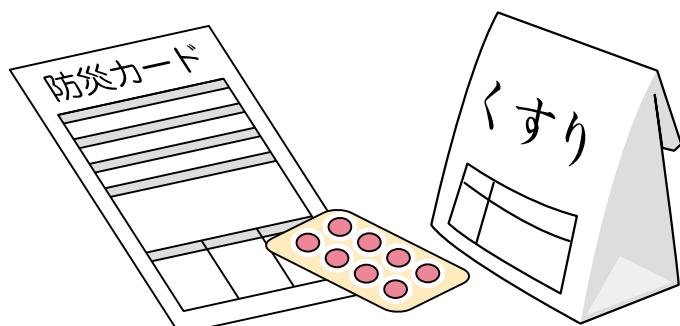
○動搖が激しい場合には、本人の了解を得て、緊急連絡先に連絡をしましょう。

○緊急連絡先と連絡がつかない場合は、医療機関に連絡し、以後の対処について指示を受けましょう。

○精神障がいのある方は慣れない環境で精神的に不安定になり、集団生活になじめないので、本人や家族に対して配慮するよう心がけましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。



7 知的障がいのある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○いざというときに避難の支援などをしてもらえるよう、お付き合いのある身近な人にお願いしておきましょう。

○防災カード（巻末付録1）などをを利用して、緊急連絡先やかかりつけの医療機関や服用している薬などを記入したものを本人と家族が持つようにしましょう。

○災害が発生した時や、通院ができなくなった場合の医療的な対処方法について、主治医から聞いておき、適切な行動がとれるようにしておきましょう。

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

災害が起きた時

○知的障がいのある方の中には、突然の状況の変化に適応できなかったり、大勢の知らない人たちと生活を共にすることが難しい場合があるので、本人や家族に対して配慮するよう心がけましょう。

○危険な状況や避難の必要性が分からないときがあります。

○言葉が伝わりにくい場合は、ゆっくり話しかけ、一つのことを簡潔に伝えるように心がけましょう。この場合、身振り・手振り・文字・絵なども交えて伝えましょう。

○大きな声で注意などをすると混乱するので、安心するようにやさしい言葉をかけ、冷静な態度で接しましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。

8 発達障がい（自閉症など）のある方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○平常時から基本的な防災用語や動作を教え、練習しておきましょう。（もぐる（机に）、ひなん（一緒に）、まもる（頭を）、ていでん（実際に暗くする）など）

○「じしん」「ゆれる」「あたま」「まもる」など伝え、起震車で地震の揺れを体験するのもよいでしょう。（心配な場合は、参加する訓練が開催される 2日前までに、危機管理課に相談していただければ、訓練の前後に特別に体験する時間を設けるなど配慮します。）

○災害が発生した時や、通院ができなくなった場合の医療的な対処方法について、主治医から聞いておき、適切な行動がとれるようにしておきましょう。

○薬の服用がある人は、日頃服用している薬（1回ずつの小分けにして 3 日分）と服薬メモ（服薬の仕方）も添えて準備し、携帯しましょう。

○非常持出袋の中には、防災カード（巻末付録 1）、コミュニケーションをとるために必要なもの（絵カード、写真、メモ、筆記用具など）や本人が好きなもの（安心できるもの）も準備しましょう。

○市で配布している「こどもサポートファイル」や、家族が作成する「サポートブック」などを情報共有や支援に役立てましょう。

○どうしても避難施設へ移動できない時のために、テントなど野営の準備をしておく必要もあります。

○近隣の方々に自閉症などについて理解してもらい、災害発生時の安否確認・通報・救助活動に協力してもらえるようにお願いしておきましょう。

- 危険がわからない
- こだわりが強いので変化に不安を感じる
- 困っていることを伝えられない場合がある
- 大怪我をしても平気な顔をしている場合がある
- 集団行動がとりにくく

○自閉症の方の中には、大勢の人がいる場所や声の反響する場所が苦手な方もいるので、人の移動が少ない壁際や、出口付近や窓のある場所を確保するようにしましょう。藤沢市の避難施設では、各施設ごとに避難施設運営マニュアルを整備しています。各避難施設運営マニュアルでは、避難スペースに優先順位を定めており、小さな部屋など、要配慮者優先のスペースを設けています。日頃から、自主防災組織などに子どもが自閉症であることを伝え、できるだけ避難施設ごとの訓練や、地区の総合防災訓練に参加しましょう。

災害が起きた時

○情報を伝える時には、突然後ろから声をかけたり体に触れたりしないで、正面に立ち、静かな口調でゆっくりと簡潔に話しかけましょう。絵や文字での筆談やジェスチャー、実物を提示する（例：食器を見せたら食事）など、目で見て「これから何をするのか」が分かるような伝え方をしましょう。また、「走っちゃダメ」のような否定ではなく、「歩こうね」のように肯定的に言うようにしましょう。

○避難するときは、自閉症の方は、どこに行くのかを知らせないと動けないことがあります。静かにゆっくりと短く具体的な言葉で予告したり、避難所の絵などの行き先の手がかりになるものを見せるなどして、落ち着かせながら、安全な誘導をしましょう。本人が安心感を得られるものは持っていける範囲で持ち出しましょう。

○慣れない人・大勢の人の中では精神的に不安定になり、パニックになることもあります。そのような場合は、できたら静かな所に移動させ、落ち着いた後に、「このレジャーシートに座っていてください」など、本人の居場所を明確に示して安定を図りましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。

発達障がいとは？

こうはんせいはったつしう

じへいしう ふく

がくしゅうしう

ちゅう い けつかん た どうせいしう

●広汎性発達障がい(自閉症を含む) ●学習障がい(LD) ●注意欠陥多動性障がい(ADHD)など

生まれつき、脳の機能に原因があって生じる障がいです。

発達障がいの方はいくつかの障がいの特性を併せ持っていることが多いという特徴があります。否定的な言動には過敏な方が多いので、できるだけ肯定的に話してください。また、きつい口調や大声、力強くで急にさわられることは苦手なことが多いので、話しかけるときは正面に立ち、ゆっくりやさしく接しましょう。



第3章 要介護者

1 介護支援が無ければ生活が困難な方及びその支援者

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
(布団で寝ている場合に車いす等が揺れによって倒れないようにする対策や、他の家財の落下等で車いす等を破損させない対策も必要)
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○支援者や近隣の方々と災害が起きたら、どうするか話し合う機会を設けましょう。(きっかけがわからない場合は、「自治会・町内会」へ相談しましょう。)

○特に津波・洪水の浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、注意が必要です。避難場所、避難ルートを確認し、いざというときに行動できるよう心がけましょう。

○搬送支援に備えて、シーツ、毛布、簡易担架、リヤカーなどの搬送用具を用意しておきましょう。

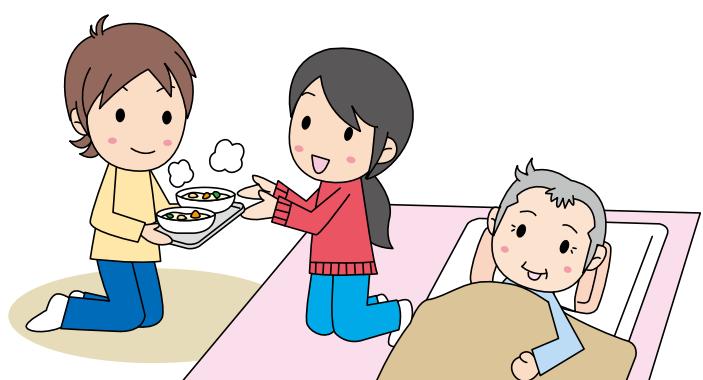
災害が起きた時

○支援者は、避難行動要支援者が何を求めているか、しっかり話を聞きましょう。声をかけて、不安を取り除き、どのような支援が必要か尋ねましょう。

○避難するときに、足腰が弱って自力で動けない場合もあります。支援者は持ち出し品などを持つてあげるようにしましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。避難行動要支援者は、何が必要か支援者に伝えましょう。

○津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域に居住する場合は、大きな地震があった場合、警報や避難勧告などがなくても、命を守るために直ちに避難しましょう。



第3部 要配慮者の支援

1 要配慮者・ご家族・身近な方へ

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄

○災害が発生した場合、まずは自らの安全を確保することが基本です。防災の知識を身につけ、日頃の備えを万全にしましょう

○要配慮者の存在や支援の内容を近隣の方に知ってもらい、被災時の安否確認・通報・救助活動に協力してもらえるようにお願いしておきましょう。

○防災訓練には、家族と本人と一緒に積極的に参加しましょう。

○被災した場合の具体的な避難方法、避難経路、連絡方法、役割分担などを家族や身近な介助者・福祉サービス事業者や職場の人と日頃から話し合っておきましょう。

○薬を服用している場合には、処方されている薬の被災後の入手方法や医療的なアドバイスを、かかりつけの医師に確認しておきましょう。

○要配慮者が避難生活で必要なものは、あらかじめ非常持出袋に入れて準備しましょう。

○要配慮者に必要な支援や関わり方をまとめた防災カード（巻末付録 1）を作成し、通勤通学時のかばんや非常持出袋に入れておきましょう。

災害が起きた時

○周囲の安全を確認しながら、要配慮者の安否確認をしましょう。

○言葉を理解することが苦手な人に対しては、文字や絵などを使い、言葉の内容を理解してもらいましょう。

○地震が発生したら座布団などで頭部を保護させ、転倒、落下物に注意し、要配慮者のペースに配慮し、安全な場所へ誘導しましょう。

○要配慮者と離れている時に備え、近隣の方にお願いしたり、災害用伝言ダイヤルなどを利用した安否確認方法などを確認しておきましょう。

○避難の際は、非常持出袋を持ち出しましょう。

○自宅前に避難先の連絡メモを残しましょう。

○自宅が無事であれば、無理に避難する必要はありませんが、情報や物資が不足する場合は、避難施設に取りに行く必要があります。要配慮者は、何か必要があれば支援者に伝えましょう。

2 支援者のみなさん～地域の方へ～

日頃の備え

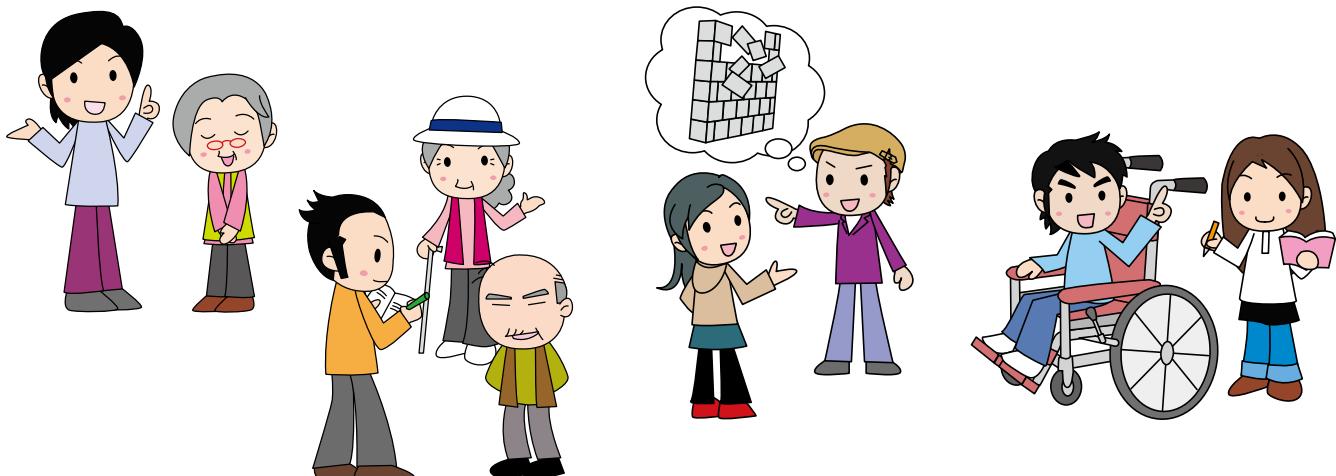
- プライバシーに配慮しながら、要配慮者とその家族と交流を深め、災害発生時にはどのような支援が必要であるかを話し合い、災害発生時には遠慮なく支援を申し出てもらえるような関係を築きましょう。
- 自主防災組織の中で、要配慮者の支援における役割分担を決めておきましょう。また、要配慮者が災害発生時にとるべき行動を知識として備え、適切な支援ができるようにしておきましょう。
- 防災訓練を実施する際には、要配慮者とその家族に参加を促すとともに、要配慮者が安心して参加できるような気遣いが必要です。

災害が起きた時

- 家族、隣近所、近隣の要配慮者の順に声かけを行い、自主防災組織で事前に定めた一時避難場所にて、安否確認を行い、助け合いましょう。
- 要配慮者の家族がいる場合は、家族の話も聞いた上で、適切な支援をしましょう。
- 要配慮者が一人でいる場合は、防災カード（巻末付録 1）を持っていれば連絡先へ確認し、指示に従って安心できるところに誘導しましょう。

避難施設に避難した場合

- 要配慮者の中には、外見では配慮が必要かわからない場合もありますが、特別な配慮が必要なことを理解しましょう。
- 通路は車いすが通れる幅（最低 90 cm程度以上）を確保し、バリアフリーにできるよう工夫することなどが必要です。
- 食事や水などの配給の際、要配慮者のお世話をために列に並べない人もいます。周囲の人は係の人に連絡したり、代わりに受け取るなど協力しましょう。



3 妊婦・乳幼児及び家族のために

日頃の備え

○「みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編」などを参考にして、自宅の被災を防ぎ、避難施設へ避難せずに、自宅で安心して生活ができるよう、次の対策をしましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- 家財の落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 風水害に備えた自宅周りのチェック
- 飲み水、食べ物など必要とするもの 1週間分以上を家庭で備蓄
(乳幼児の世話に必要な物を 1週間外出しなくても足りる量を用意してください。)

○よく過ごす部屋では、テレビや家具などが倒れてこない「安全ゾーン」を作り、親子で「避難訓練ごっこ」をするなど、日頃から防災意識を高めましょう。(できれば家の中すべてを「安全ゾーン」にしてください。)

○非常持出品の中には、災害グッズのほかに乳幼児の世話に必要なもの(離乳食や粉ミルク、紙おむつ、おしりふきなど)を入れましょう。

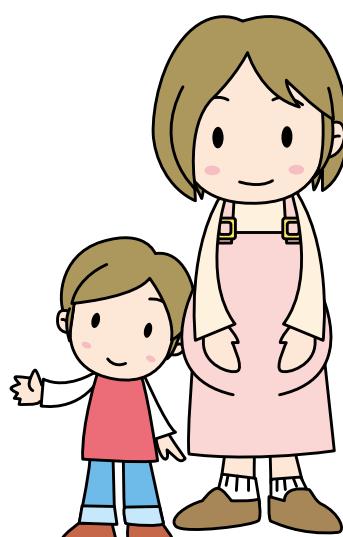
災害が起きた時

○乳幼児を抱えての避難は大変危険です。どのような支援が必要か、声をかけましょう。

○妊婦の方は、自分で動ける範囲やできることが制限されるため、避難するときには、配慮が必要です。

妊婦さんと乳幼児のいるご家庭向けには、リーフレット「ふじさわ防災ナビ～妊婦さんと乳幼児がいるご家庭編～」を作成し、藤沢市の子育て関連施設で配布しています。

災害発生時の妊婦さんの産科受診や、乳幼児用の非常持出品リストなどについて紹介していますので、ぜひお読みください。



がいこくじんしみん

4 外国人市民のために (For Non-Japanese Residents)

ひごろそな

日頃の備え

ひごろちいきぼうさいいべんとちいきかつどうさんか

○日頃から地域の防災イベントや地域活動に参加しましょう。

Take part in local disaster prevention activities and daily activities in your community.

災害が起きた時

○生活習慣の違いから困ることがあります。言葉で伝えきれないことがある場合は、簡単な絵やジェスチャーなどを使うことによって、コミュニケーションが取りやすくなります。

がいこくかた

たげんごぼうさいがいど

外国の方のための多言語防災ガイド

Disaster Prevention Guidebook in 7 Languages

ふじさわし

がいこくかた

たげんごぼうさいがいど

がいこくごばんがいどぶっく

藤沢市 HP において、「外国の方のための多言語防災ガイド」という外国語版ガイドブックが公開されています。日頃から災害に備えておきましょう。

ふじさわし

藤沢市 HP (URL→<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>)

Disaster Prevention Guidebook in 7 Languages have been posted on Fujisawa City's home page. (English, Chinese, Korean, Spanish, Portuguese, Vietnamese, and Japanese) Please refer to the above link. Prepare yourself, your family and your home for disaster.



かんまつふろくいち
卷末付録1

ぼうさいかーど
防災カード Disaster Prevention Card

| わたしのデータ My information | | | |
|--|-----------------|---------------------------|--|
| フリガナ 氏名 住所 電話番号 生年月日 | Name | けつえきがた 血液型 | A・B・O・AB Blood Type ／Rh + - |
| Address 神奈川県藤沢市 | | | |
| Telephone Number (Home) | けいたいでんわ 携帯電話 | Telephone Number (Mobile) | |
| Date of birth 明治・大正・昭和・平成 | 年/Year | 月/Month | 日生/Day |
| 緊急時連絡先 Emergency Contact (Family, Relatives and Friends, etc.) | | | |
| 氏名 住所 氏名 住所 | つづきから 続柄 | れんらくさまでんわ 連絡先電話番号 | Telephone Number |
| Name Address Name Address | | | |
| わたしの健康状態 | | | |
| げんざいちりうちゅう ひょうき かこ おむ ひょうき しょう ないよう たき あれ うぎ くすり 現在治療中の病気・過去にかかった大きな病気・障がいの内容・その他気をつけてほしいこと(アレルギーがでた薬など) | | | |
| かかりつけの病院など | | | |
| かかりつけの病院名・医師名 | じゅうしょ 住所 | でんわ 電話番号 | しょほう くすり くすり なまえ ようりょう ののかた 処方されている薬(薬の名前、用量mg、飲み方など) |
| | | | |

かんまつふろくに
卷末付録2

コミュニケーションボード Communications board

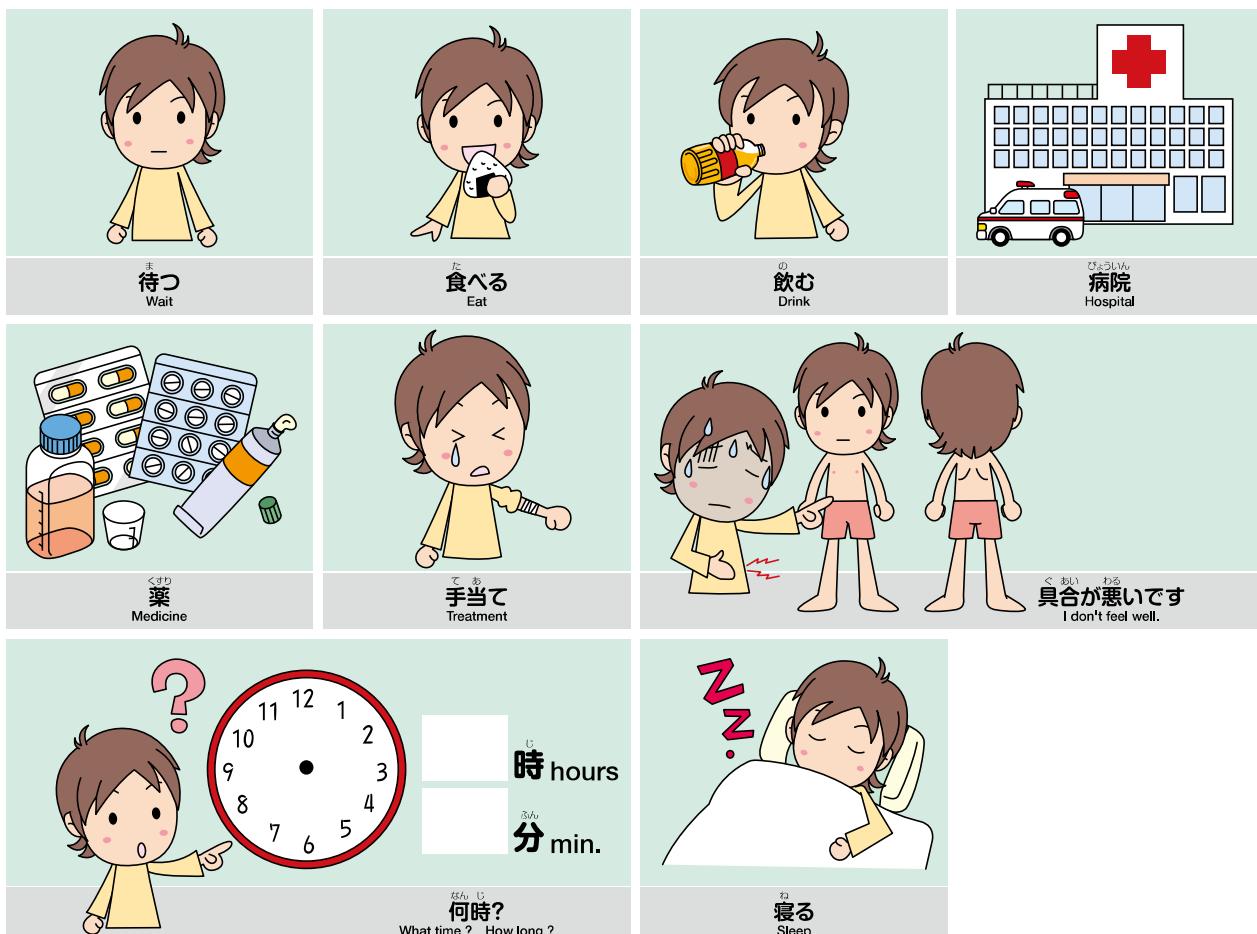
わたしの伝えたいこと What I want to communicate



コミュニケーションのためにお使いください

そうだん き かん
わたしの相談機関

| なまえ 名前 | じゅうしょ 住所 | でんわ ばんごう 電話番号 | その他 |
|--|--|--------------------------------|--------------------------------------|
| みんせい いいん じ どう い いん 民生委員・児童委員 けあまねーじやー ケアマネージャー さーひすじぎょうしき サービス事業所 がくこう 学校 たの その他 | | | |
| せいかつ わたしの生活 にちじゅうせいかつ 日常生活のできること・できないこと・お願ひしたいこと | | | |
| | | | |
| ひなん 避難するところ Evacuation Shelter | | | |
| し き 市の決めた避難所 | Evacuation Shelter | | |
| かぞく はな 家族が離ればなれになったときの集合場所 | Meeting place should the family become separated. | | |
| ぼうさいかんけい き かんれんらくさき 防災関係機関連絡先 Authorities to call in case of an emergency | | | |
| ふじさわ し やくしゃ 藤沢市役所 | Fujisawa City Hall 0466-25-1111 | しょうぼう きゅうきゅうしゃ 消防／救急車 | Fire Department／Ambulance 119 |
| さいがいようでんごん 災害用伝言ダイヤル | Dial Message Service in times of disaster 171 | けいさつ 警察 | Police 110 |
| すいどう 水道 | Water | でんき 電気 | Electricity |
| ガス | Gas | たいしかん りょうじかん 大使館／領事館 | Embassy／Consulate |



福祉避難所一覧

福祉避難所は、災害などにより被害を受け、自分の家に居住できなくなった方で、介護の必要な高齢者や障がい者など、一般の避難施設では生活に支障のある方が、受入れ可能な福祉施設等へ移動できるようになるまでの期間、一時的に避難する施設をいいます。藤沢市では、市民センター・公民館を福祉避難所に指定しています。

福祉避難所以外の避難施設については、「ふじさわ防災ナビ～みんなの防災・オーダーメイドの災害対応編～」に掲載しています。

| 地区名 | 名称 | 所在地 | 電話 | FAX |
|------|------------|--------------|---------|---------|
| 片瀬 | 片瀬市民センター | 片瀬 3-9-6 | 27-2711 | 25-8907 |
| 鵠沼 | 鵠沼市民センター | 鵠沼海岸 2-10-34 | 33-2001 | 33-2203 |
| 辻堂 | 辻堂市民センター | 辻堂東海岸 1-1-41 | 34-8661 | 34-4187 |
| 村岡 | 村岡公民館 | 弥勒寺 1-7-7 | 23-0634 | 23-0641 |
| 藤沢 | 藤沢公民館 | 藤沢 1-9-17 | 22-0019 | 22-0293 |
| 明治 | 明治市民センター | 辻堂新町 1-11-23 | 34-3444 | 33-5727 |
| 湘南大庭 | 湘南大庭市民センター | 大庭 5406-1 | 87-1111 | 87-1110 |
| 善行 | 善行市民センター | 善行 1-2-3 | 81-4431 | 81-4441 |
| 六会 | 六会市民センター | 亀井野4-8-1 | 81-6677 | 83-2298 |
| 湘南台 | 湘南台市民センター | 湘南台 1-8 | 45-1600 | 45-1604 |
| 長後 | 長後市民センター | 長後 513 | 44-1622 | 46-7034 |
| 遠藤 | 遠藤市民センター | 遠藤 2984-3 | 87-3009 | 87-3008 |
| 御所見 | 御所見市民センター | 打戻 1760-1 | 48-1002 | 48-5807 |

2017年(平成29年)3月31日現在



発行：2017年(平成29年)10月

藤沢市防災安全部危機管理課

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1

TEL. 0466-25-1111 FAX. 0466-50-8401

E-Mail. fj-kikikanri@city.fujisawa.lg.jp